

読売新聞 きょう（5月9日）のイチ押し

1面など コロナ労災 昨年6041人

新型コロナウイルスへの感染が原因の労働災害で4日以上休業したり死亡したりした人(死傷者)が、昨年1年間で6041人に上ったことが、厚生労働省のまとめで判明しました。病院や高齢者施設などで働く医療・福祉関係者が大半を占めていました。

- ★ 労災を業種別で見ると、病院など「医療保健業」が2961人と最も多く、特別養護老人ホームなど「社会福祉施設」が1600人で続きました。両者を合わせると、全体の75%に達していました。
- ★ 国内の新型コロナ新規感染者は8日、7245人確認され、約4か月ぶりに1日当たりの感染者が7000人を超えました。岡山や広島など14道県で過去最多を記録しました。

社会面 政治とカネ 問えぬ議会

不公正な金品を受け取るなどの疑いのある議員に対し、実態の解明や責任の追及を議会として行う仕組みを条例などで整えているのは、全国47都道府県議会のうち、半数以下の19県議会にとどまっています。議会が自浄作用を発揮しようとする動きは鈍いようです。本紙の独自調査です。

- ★ 19県議会は、審査会を開いて政治的、道義的責任があると判断した場合は議員辞職の勧告ができるといった制度を導入しています。ただし、うち14県は「個人情報保護」などを理由に、原則非公開です。
- ★ 28都道府県では、議会が調査する仕組みがありません。東京都や神奈川県などは「必要性が議論になったことがない」などとしています。

他紙と比べて

2002年夏、首都圏の川に迷い込んだ1頭の野生のアザラシが日本中の注目を集めました。多摩川にちなんで「タマちゃん」と呼ばれたそのアザラシをご記憶の方は多いことでしょう。でも、今も「見守る会」の活動を続ける人たちがいることはご存じでしたか。1面と特集面の連動企画「あれから」では、当時の熱気を振り返るとともに、タマちゃんに魅了され続ける人々の思いに耳を傾けています。